

つなぐ



諫早市立大草小学校
特別支援教育
コーディネーターだより
H30.11.21 No.25
文責 林田

😊 教えること、考えさせること 😊

11月も半ばを過ぎ、冬を感じさせるこの頃となりました。最近子どもたちから聞こえてくる話題の一つに「予防接種」があります。インフルエンザにかからないようにと、病院で接種しているようです。

「インフルエンザにかからないように、予防接種をする。普段から手洗いやうがいをする。」というようなことは、**大人が教えないとわからないこと**です。

しかし、例えば、忘れ物をした時は、「どうすれば忘れなかったと思う？」と考えさせ、子ども自身に気付かせることは、とても大切です。**小さな失敗を経験し、それを防ぐ方法を自分で考えることは、大人になってからぶつかるであろう様々な問題を解決する力となるから**です。

もしも、子どもが忘れ物をするからと、常に大人が準備をしてしまうようでは、その子はいつまでも忘れ物を繰り返すでしょう。子どもを育てていく上では、「教え、やらせて、**考えさせ、できたら褒める**」が基本となります。

「教えるべきこと」「考え気付かせること」を大人（親）がきちんと判断し、上手に使い分けながら、子どもたちを育てていけたらと思います。



忘れ物をしないよう
「forget」……。

😊 「怒る」と「叱る」 😊

子どもたちが何らかの失敗をした時に、私たちは「次に同じ失敗をしないように」と指導をします。ご家庭でも、毎日の生活の中で「叱る」場面を経験されることが多いと思います。

時々ふり返っていただきたいのが、「私が言っていることは、子どもにまっすぐに伝わっているかな？」ということです。「叱る」と「怒る」ことは違うことは皆さんお分かりかと思いますが、今回、もう一度確認してみたいと思います。

「怒っている」時…

怒っている本人は、
「なぜこんなこともできないの？」
「どうして同じことを繰り返すの？」
「なんで、言うとおりにできないの？」
と**感情的になった状態**のことが多く、
そのような場合、子どもには
「怒られた。怖かった。」
という思いだけが残り、指導された
内容は伝わっていないことがあります。



「叱る」時…

「叱る」のは、その子に「**こうなって欲しい**」という**願いを伝えること**です。**冷静**に考え、叱っている子の様子を見ながら話をすることができます。

子どもも大人も落ち着いて話すことができ、じっくり話すことができます。

落ち着いて話ができると、例えば1年生でも、大人の言いたいことを理解し、頑張ろうと思ってくれますよ。😊



毎日の生活の中で、大人といえどその日の体調や仕事の状況等で、感情的になることもあるのは仕方のないことです。しかし、時々自分と子どもの関係をふり返ることも大切です。子育てに疲れたときは、大草小にお茶でも飲みいらしてください。お待ちしております。😊

私事ですが、十数年前、初めての子育てをしていた時、常に「言って聞かせる」ことを繰り返していたような気がします。言っていなかったら、また同じことを言う…という具合です。その結果、我が子が4年生の時、親子喧嘩が勃発！母親に負けまいと、理詰め（屁理屈にしか聞こえませんが、本当に必死に）食って掛かってくる我が子に、これまた大人げなく同じレベルで返していた私を思い出します。今となっては笑話ですが、あの頃の私に、もう少し「子どもの話に耳を傾ける余裕」があればよかったな…と振り返っています。最近その我が子から「お母さん、前よりおおらかになったね。」と褒められました。う～ん、あなたに育ててもらったのかも。